

いま、四島返還の思いを受け継ぐため

札幌北斗高等学校 一年 大野美月

今、北方領土問題の解決に求められるのは「早急さ」です。

四島返還の為、まず、私たちは北方領土問題を広く知らしめなければいけません。

皆さんは「洋上慰霊」をご存知でしょうか。洋上慰霊とは、北方領土四島に先祖が眠る元島民の方々が、船で可能な限り四島に近づき、船上で行う慰霊式の事です。この洋上慰霊は昨年の一月から行われた新事業ですが、その前は四島に実際に上陸しご先祖様へのお墓参り、北方墓参が可能でした。

しかし今では、ロシア・ウクライナ情勢から当面の間の上陸は見送りとされており、「せめて四島の近くで慰霊したい」という元島民の方々の気持ちに寄り添って、洋上慰霊が実施されたのです。

この話題をテレビのニュースで目にした時、私はひどく驚きました。北方領土問題が抱える大きな課題は領

土の権利問題ですが、近年では四島に上陸することすら難しいのです。自分の故郷であるのにも関わらず、です。根室振興局のホームページに掲載されている「各回の様子」という記事の中にも、肯定的な感想と共に「四島の地を踏みたかった」という口惜しいコメントが残されていました。

この結果は、どんな状況でも慰霊を絶やさない島民の切実な気持ちと共に、「北方領土問題が後回しにされている」という現状の大きな問題も示しているのです。

ロシアにおける現在の最優先国際問題はウクライナとの紛争問題です。しかし、北方領土問題は四島が不法占拠された一九四五年から、約八十年間続く国際問題であるはずです。その間、四島にはロシアの居住者の方々の生活や家庭があり、世帯が移り変わるほどの年月が経っています。

ロシア国民の方々の中には、北方領土こそ故郷という人も少なからずいます。今の膠着状態が今後も続けば、四島の返還はさらに難しくなるだろうと考えられます。高齢化し減少していく日本の元島民と、続いて

いくロシア人の四島内の生活。時間が経てば経つほど、この問題の亀裂は深くなるばかりです。

解決策どころか交流事業も後回しにされている現状は、この問題における当事者以外の意識の薄さが反映されています。北方領土問題は、早急に対策がなされるべきだと私は思います。たとえそれが一時的なものでも良いんです。一刻でも早く、会談や交流を行い、両国国民が解決と共生の気持ちをもつことが解決への大きなワンステップとなります。

では、私たちが北方領土問題解決のためにできることはなんでしょうか。

最終目標は「元島民でなくとも四島に上陸できる環境を整えること」だと思います。高齢化に伴った元島民の減少が進行すると、四島返還のため声を上げる人々の数も減少すると考えられます。そのため、今のうちから、元島民ではない人々にも北方領土に対する関心と今後を考える機会が必要になります。私の提示するアイデアは、「ショート動画の配信」です。

S N S が普及した現代において、動画を使った発信はZ世代を中心とした幅広い世代への有効なアプローチになります。短い秒数に簡潔に内容がまとめられている動画であれば、「難しそう」という固定的なイメージを持っている人にも興味を持ってもらいやすいと思います。また、この方法であれば、元島民の課題である「高齢化」を魅力のひとつとして扱うことも可能です。ネットでは、大人や高齢者が若者文化を全力で体験することに対して、かわいい、面白い、と好感をもつ状況もよく目にします。有志の元島民の方々に簡単な流行りのダンスを踊って頂き、それをショート動画投稿サイトにアップロードして、少しでも多くの若者の目に触れられれば、若者が北方領土問題の現状に興味を持つ十分な導線になると思われます。もちろん、ダンスだけでなく、四島の歴史を簡易的にまとめたショートアニメや、交流事業のいち風景でも効果は十分に得られます。また発信内容についても、中高生が中心に考え、元島民の方々と直接関わることをできます。そうして幅広い世代への周知を行うことで、多くの人々から

様々な意見や考えが集まり、今後の対策案もそれを基に考えられます。

世界情勢に身を任せ、後回しにしてはいけないのです。決して先延ばしされるべき問題ではありません。今、はじめに求められるのは広い周知と、次の行動です。

今ここで、発表を行うこと。声をあげること。洋上慰霊からはじまる第一声が迅速な問題解決の第一歩になることを、心より願います。